

技術者の会 “ニュースレター”(issue13)

Professional Engineers Association of Urban Disaster Preparedness

TOPICS

1. ご挨拶..... 1
2. 活動報告..... 2
3. 事務局より..... 8

1. ご挨拶

理事長 笹山 幸俊

NPO法人都市災害に備える技術者の会は、12年前に発生した阪神・淡路大震災で得た経験を、それぞれの地域にお伝えすることを、大切な使命の一つとして活動しています。特に、それぞれの対応の仕方や必要な技術を、市民の皆様や団体や企業、公共的機関の皆様にお知らせし、加えて後輩の方々に引き継いでいくことが必要な時期になっています。

この2、3年に、アジア地域に加えて、国内でも中越、能登の農山村を地震が襲い、高齢者を含む多くの人たちの命と財産が失われました。

今後、東南海を含む太平洋側において、地震と津波が発生する可能性が高いと言われています。1日も早く具体的な対応を心掛ける必要があります。それには市民団体と公共団体とのネットワークづくりに向けて努力する必要があります。また、地域別でなく隣接する地域も含めて、地形、歴史の勉強が必要になります。そのためには相互の協力が必要です。まずは少なくとも近畿2府4県の範囲のネットワークができることを念じております。国、府県、市長の担当者およびOBの皆様には、引き続きご協力をお願いします。

私たちの防災・減災活動について - 国交省近畿地方整備局布村局長を訪問 -

事務局長 山田 俊満

去る4月13日の午後、国交省近畿地方整備局に布村明彦局長を訪ねました。事前に申し入れをして急遽決まった日程に従って訪問しました。当日は局内企画部吉村防災課長陪席（先に内容は説明済み）の元に、

日本技術士会近畿支部建設部会とNPO法人都市災害に備える技術者の会との関係と、この協力活動については技術士会の活動ビジョンとも密接な関係を持っていること NPO法人の中心的活動の一つに防災・減災のためのネットワークづくりがあり、そのための推進会議という組織が近く活動開始する準備会が開かれる これの推進に当って吉村防災課長も参加していただいている またこの活動には歴代の内閣府政策統括官や国交省の関係者も関心を寄せて頂いていて絶えず情報交換も行っている この時に布村局長、深澤企画部長を教えられ、更に紹介しておくので訪ねて協力関係を確立されるようにとアドバイス。

以上の経過を含めてご意見等を伺ったが、このような活動では昼間は時間が取り難いので、局長としては夜の講演会、研修会の方が出席しやすいので、機会には是非誘って欲しい。そして「関わった出版物の中でこれを贈呈します」と(火山に強くなる本 - 山と渓谷社刊 共著)を寄贈して下さった。

辞去するに際して、局長に5月24日の第1回震災対策展のシンポジウムへの参加をお誘いしました。そして今後共よく情報の交換等を通じてネットワークづくりについての協力関係を築こうと話し合い再会を約しました。 07.04.15(山田俊満 記)

ごあいさつ

国土交通省総合計画局国際建設経済室長 青木栄治

内閣府(防災担当)でお世話になりました青木です。このたび、4月1日付で国土交通省に異動いたしました。ただ、能登半島地震の対応をお手伝いするため、約2週間内閣府にとどまり、その間、輪島市に1週間少々詰めしておりました。

この1年半少々の間、大変短い期間ではありましたが、笹山理事長、山田事務局長ほか皆さんの、熱い思いに非常に感動して、ごく微力ながらお手伝いをさせていただきます。というより、逆に色々教えていただいたこと、感謝しております。

その間に感じたのは、皆さんの「若さ」です。高齢化の進む能登では「ここでは60代は若手」と言われましたが、理事の皆さんもそのとおりです。後輩をリードして、組織作りを一層進められることと思います。また当面の課題として、特に民間・他分野の方々との連携には、より積極的に手を伸ばしていかれることを期待しています。内閣府もそのお役に立てるのではないかと思います。

今度の仕事は通商関係の国際交渉事が主なので、直接仕事上で関係することは少ないかも知れませんが、このご縁はこれからも大事にしたいと思います。

出張先(ジュネーブ)より

ご後任の伊丹様には次号にてご挨拶の原稿を執筆していただく予定です。

2. 活動報告

(1) 『防災・減災ネットワークづくり推進会議』 準備会報告

- 1 日時：平成19年4月18日(水)14時～17時
- 2 場所：神戸国際会館 20階
(財)神戸国際協力センター会議室
- 3 出席者
伊丹 潔(内閣府政策統括官(防災担当)付企画官)
小南正雄(兵庫県県土整備部住宅建築局
住宅計画課副課長)
片瀬範雄((財)神戸市都市整備公社専務理事)
長手 務((前)神戸市理事(危機管理担当))
平井健二(神戸市理事(危機管理担当))
佐藤裕一(京都大学)
笹山幸俊(NPO法人都市災害に備える技術者の会
理事長)
山田俊満(同上 副理事長・事務局長)
太田英将(同上 理事・企画委員会副委員長)
伊藤東洋雄(同上 (社)日本技術士会近畿支部
建設部会副幹事長)
- 4 配布資料：
 - (1) 議事次第(末尾に掲載)
 - (2) 出席者名簿
 - (3) 特定非営利活動法人 都市災害に備える
技術者の会 概要書
 - (4) ニュースレター 10～12



会議の様子

(5) 防災・減災ネットワークづくり推進会議
議事録

(6) 第一回震災対策技術展
大阪シンポジウム / セミナー

5 議事内容(司会進行 山田俊満副理事長)

(1) 開会挨拶：笹山理事長

・先日テレビで放映された近畿2府4県の知事座談会の内容を受けて、市町の実際に働く人達のNW作りを進めなければ災害時の対応が遅れる。

・役所のOB達の会がいろいろあるが、定款に災害に関することも付け加えて頂き、各OB会のNWを作る必要がある。

・先日、亀山で地震が発生したが、自治体間の連絡は十分であったか。

亀山は150年前にも地震を経験しているが、その経験が十分生かされていたか。

・能登半島地震でも周辺の被害が小さかったところから救援にいったかどうかすら情報が伝わらないためわかりにくい。いろいろな団体・退職者会の中で専門家をつかまえておく必要がある。

・地域の人を知っていることでも他所から応援に駆けつけた救援者には知らないことがある。

・OB間、自治体間で普段から情報伝達がさらに円滑になるようにする必要がある。

(2) 自己紹介(以下敬称略)

・伊丹：4月1日から着任した。

・佐藤：西山の代理で出席した。普段、西山の下で研究している。

・小南：依藤康正住宅建築局長(酒井前局長後任)の代理で出席した。県庁内の「兵庫県まちづくり建築技術者の会」の事務局を担当している。兵庫県にはNPO法人兵庫地域防災サポート隊というものもある。災害査定の手伝いをしたが、線引き等の実務は現役でないといけない。現役はコンサルに頼んでやっている実務に長けていなかった。

・長手：3月末で神戸市理事を退任した。5月1日から(財)神戸市防災安全公社理事長に就任予定である。行政機関にはそれぞれのOB組織があつて(例えば“神戸の絆”など)がある

ので調べたらよい。オフィシャルなものとしては“震災人材バンク”というものがある。

・平井：前消防局長で、4月1日から神戸市理事(危機管理担当)に就任した。幅広い防災の勉強をしたい。その成果を市に持ち帰って水平展開したい。

(河田先生は防災研究所所長の任期が終わり、京都大学防災研究所巨大災害研究センター長にかわられた。)

・片瀬：神戸市の中での組織「神戸市防災技術者の会(K-TEC)」では、現役、OBを問わず、技術職、事務職を問わずの会員で構成している。1回/月勉強会を開いている。各所への支援、出前講義、語り部活動をしている。

(3) 資料(1)-3-1)に従いフリートーク

1)防災減災ネットワークづくり推進会議の今後の進め方について

(山田)これまでNPOが主体となって推進会議を運営してきたが、今後は行政(国や地方公共団体)民間団体や学校も含めて活動の輪を広げていく方向に伴い、核となる自治体が輪番で主体となって運営して戴きたいと考えている。

(笹山)兵庫県、神戸市で旗を持ってもらい、他の府県(京都、大阪、兵庫、神戸)に交代で担当してもらってはどうか。イニシアチブはそれぞれの開催団体などがとる。

2)行政機関のOBとの連携について

国、府県、市毎のOBの会がどのように組織され、どういうことに取り組んでいるか先ず調べる必要がある。

兵庫県、神戸市のOBの会の調査結果を見本として、他の自治体にも広げていく。

神戸市には人材バンクがあり、把握可能と考えられる。

兵庫県には【兵庫地域防災サポート隊】というOB組織が最近できた。

京都市では現職の組織があり、大阪市でもOBの組織があることは聞いている。

近畿地方整備局にもOB組織がある。

(社)近畿建設協会

- 3) OBに期待するところは、実務ではなくアドバイス役である。
 役割分担は、現職はオーダーを出し、OBは実務をする。(未経験者の現職にはできることの限界があるので。)
- 今後、県庁所在地の市にもネットワークに参加していただくよう呼び掛けてはどうか。
- OBグループの中に、元局長とか元部課長ではなく、その他の人にも広く参加していただく必要がある。
- 兵庫県と神戸市のOB団体のことはわかるので、長手氏および小南氏で責任者・まとめ役の表を作り上げる。
- 4) 当NPOは何をやるのか、何ができるのかをもう一度振り返って絞り込む必要がある。内閣府としても当NPOがからめる場についてのアイデアを出してみる。
- 5) 中越地震の時の経験で、県と県、市と市は比較的連携が円滑にいったが、県と市との連携は旨く行かなかった経験がある。経験があるいっても、県には県が経験したことしかわからないし、市は市が経験したことしかわからない。同じ組織同士のやりとりとなる。
- 6) 能登地震の場合、ボランティアセンターを協同で立上げ、ニーズの吸い上げ他仕事の割付等スムーズに行っている。連絡は、Eメール・ベースである。救援活動についても、「要請があるまで来ないように」、「援助はものでなくお金で」というように過去の経験から要領を得てきている。災害の規模・内容によって助けのレベルは違う。またボランティアは自己完結型を原則としてやるようになった。
- 7) 内閣府では、災害に対する認識を高めるため、「防災国民運動」を行っている。物理・化学などの研究者とお茶を飲みながら話をするサイエンスカフェというものがあつたが、それをまねて防災カフェを作ろうとしている。そこには講師とファシリテーターとともにお茶を飲みながらやわらかい雰囲気の中で進める。“防災”のイメージは堅いので、サイエンスの視点がある防災カフェなどは楽しい

のではないだろうか。

こういうやり方が今後防災教育の柱となるのではなかろうか。

- 8) 京都大学では、大学内部の催し時や大阪市住い情報センターで中学生を対象とした耐震構造の勉強や小学生を対象とした住宅を作る勉強をゲームやクイズ形式で行っている。“安全な住まいのセミナー”などのタイトルで1回あたり半日程度で行っている。
- 9) NPOで作成・発行している『ニューズレター』を2府4県・指定都市に送り、自治体ネットワークづくりの仕事を継続していくことが重要だ。
- 10) すそ野を広げ、専門的技術集団として多数の暗黙知を現役に引き継ぐことが重要だ。今日の会議を通じて発展の芽があると強く感じた。
- 11) 動く(活動する)OB集団となり、何が得意か、何が出来るかを整理しておくことが必要だ。
 地域の市民と接した時、一般論を言っていたのでは聞いてくれない。そんなことは知っていると言って見向いてくれない。
 市民が聞きたいこと、望んでいることをリストアップし、NPOに何が出来るか、教科書に書いていないことで出来るメニューを出すと一般の人は頼りにしてくれ、喜んでくれる。
 別の機会に他の人からも同様の示唆を受けた。
 つまり、何でも出来ますではだめだ。それは何も出来ないことに通じる。
 このことが出来ると言うことをはっきりしておく事が重要だ。
- 12) 能登地震の際、現地に入った。地元の人こんな体験は初めてだと言っていた。しかし、調査の結果、1993年に地震が発生している。
 他所から移り住んだ人が、忘れていたのかは別として、語り継ぐこと、風化させないことが防災・減災につながる。
- (4) 資料(1) - 3 - 2) 各種の行事や催事への参加について
 震災対策セミナー in 神戸 の案内
 小・中学校や高校の生徒、児童向けの訓練、指導の取組み紹介

各WG活動の活性化とその経過・成果の伝達の紹介

(5) 各種の委託業務の紹介

以上

(資料 - 1 議事次第)

『防災・減災ネットワークづくり推進会議』準備会

- 1 開会の辞 笹山理事長 14:00~14:10
- 2 最近の動き 14:10~14:20
- 3 議題 14:30~

- 1) 防災・減災ネットワークづくり推進会議の今後の進め方について(特に新年度に当たって)
名簿の再確認 推進会議再編成
各行政機関のOBの動き(種類、協調の可能性)
責任者(企画を含む)を決めておく

- 2) 各種の行事や催事への参加
震災対策セミナー in 神戸
小・中学校や高校の生徒、児童向けの訓練、指導
各WG活動の活性化とその経過・成果の伝達

- 3) 各種の委託業務

- 4 その他

- 5 閉会 17:00

(2) 私たちは都市災害に備えて活動しています

この一年を振り返って更なる前進を

〔(社)日本技術士会近畿支部建設部会主催〕

第1回「震災対策セミナーin 神戸」が開催される

*** 1月18日神戸国際会議場***

本稿は、第1回「震災対策セミナーin 神戸」において、(社)日本技術士会近畿支部建設部会主催でシンポジウムを開催した報告である。第1回「震災対策セミナーin 神戸」は、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災を契機に翌々年から開催されていた震災対策技術展が装いも新たになったものである。当会の初参加は、平成12年1月第4回震災対策技術展からである。今回のシンポジウムは、平成19年1月18日神戸国際会議場において、“私たちは都市災害に備えて活動していますーこの一年を振り返って更なる前進をー”と題し開催された。国土交通省、神戸市、泉南

市、神戸学院大学、兵庫県立舞子高校、NTT、NGO、NPOなどの活動が報告され、都市計画、土木、建築各界と日本技術士会など関係者や一般参加者など70名余りの参加を得て、熱心なディスカッションが展開された。なお当日配布資料には、増田内閣府政策統括官(防災担当)をはじめ都丸日本技術士会会長や笹山NPO法人都市災害に備える技術者の会理事長他から寄せられた誠意と熱のこもったご挨拶を掲載した。また、同日神戸国際会議場において展示を行った。

キーワード; 阪神・淡路大震災 災害対応
各界協調 防災NPO法人

1. はじめに

平成19年1月18日(木)午前10時から午後5時まで7時間に亘り、神戸市の神戸国際会議場(神戸ポートアイランド)において、第1回震災対策セミナーの一つとして、近畿支部建設部会主催で“私たちは都市災害に備えて活動していますーこの一年を振り返って更なる前進をー”と題し本シンポジウムは開催された。

笹山幸俊NPO法人「都市災害に備える技術者の会」理事長(元神戸市長)梅田元日本技術士会会長など、第一部(午前)及び第二部(午後)それぞれ70名余りの参加を得て開催された。(以下敬称略)

2. 午前の部

司会進行は建設部会幹事の太田英将が行い、森田孝雄近畿支部副部会長が開会を宣言し、開講した。

~開講に当たって~

山田俊満 統括・コーディネーター

主催者を代表して日本技術士会近畿支部建設部会長、NPO法人都市災害に備える技術者の会副理事長で総括・コーディネーターの山田俊満より、本シンポジウムの主旨が述べられた。

「本シンポジウムは、阪神・淡路大震災を契機に翌々年から開催されていた震災対策技術展が、装いも新たに第1回「震災対策セミナーin 神戸」として開催される事になり、その一つとして参加するものである。

本シンポジウムのテーマは“防災・減災のために必要なネットワークづくり”であって、昨年のシンポ

ジウムで提言された“公共団体と市民たちのネットワークづくり”に取り組むために、新たに、午前中を第1部として、「都市災害に備えて活動する団体の報告を聴く」ことといたしました。第一部のコーディネーターを京都大学の西山峰広助教授にお願いいたします。」と本シンポジウムの主旨説明を行った。

第一部

「都市災害に備えて活動する団体の報告を聴く」

第一部のコーディネーター、京都大学の西山峰広助教授の進行でシンポジウムが行われた。

コーディネーター

西山峰広 京都大学大学院工学研究科
都市環境工学専攻環境材料学 助教授

パネリストのご紹介（講演順）

村井雅清 被災地NGO協同センター 代表

<災害時におけるボランティアの役割>

清水煌三 ケーエス技術士事務所 所長

<障害・高齢当事者として求められる防災・減災意識の向上>

吉村元吾 国土交通省近畿地方整備局企画部
防災課長

<『安全・安心な地域づくり』を通じたネットワークづくり>

諏訪清二 兵庫県立舞子高等学校環境防災科教諭

<環境防災科の活動と地域への貢献>

前林清和 神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット長、人文学部教授

<大学による都市災害に対する社会貢献について>

北野勝彦 NPO法人紀泉地域21総合整備
協議会 会長

<今から20年前に大阪・兵庫即ち阪神地域は減災のチャンス失った!!>

3. 午後の部

～挨拶～

○**梅田昌郎** 元日本技術士会会長

～基調講演～「わが国の防災技術の今後」

室崎益輝氏（総務省消防庁消防研究センター所長）
わが国の防災技術の第一人者で、本シンポジウムの
コメンテーター、NPO法人「都市災害に備える技術

者の会」理事の室崎先生から基調講演をしていただいた。

「来るべき大震災などの巨大災害に備えるうえで、被害軽減につながる減災科学技術のあるべき姿を、阪神・淡路大震災の問いかけを踏まえて、考えてみたい。

防災には技術とネットワークが大事であると言いたい。防災の世界も心技体が揃う必要がある。例えば、川に子供が溺れようとしている時、「心」まず飛び込む勇気が必要である。しかし、「技」泳げないと駄目である。そして、「体」一人では駄目である。多くの人の助けが必要である。ネットワークが大切である。

今後、市民と一緒にあって、防災技術は進化していかなければならない。」と講演された。



写真 室崎益輝

第二部

「都市災害に備えてネットワーク作りを進めよう」

～第二部の開講にあたり～

山田俊満 総括・コーディネーター

「第一部（午前）では現在活動されている方の講演をお願いした。第二部では、笹山理事長が『ネットワークづくりの重要性』を提言されており、午前中の議論を土台に、『ネットワークづくり』について議論を進めていきたい。」と述べ、第二部が開講した。

パネリストのご紹介（講演順）

西山峰広 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻環境材料学 助教授

<『第1部のまとめ』と『ネットワークづくり』>

青木栄治 内閣府政策統括官（防災担当）付企画官
<ネットワークづくりのための「国民運動」>

向井通彦 大阪府泉南市長

<都市災害に備えるネットワークづくり>

多田理 (株)NTT データコミュニティプロデュー
ス常務関西支社長

<阪神・淡路大震災の経験を活かして迅速で的確な情
報伝達を支援する「ERAIKO」>

北野勝彦 NPO法人紀泉地域21総合整備
協議会会長

<今から20年前に大阪・兵庫即ち阪神地域は減災の
チャンス失った!!>

長手務 神戸市理事 危機管理担当

<ネットワークによる防災・減災へ>

コメンテーター

○室崎益輝 総務省消防庁消防研究センター所長

~まとめ~

○室崎益輝

「参考になる意見を多くいただいた。共通するのは被
害を軽減するネットワークづくりである。多種、多彩
(広い範囲)のネットワークづくりが大事である。ネ
ットワークづくりは段階的で多層的に進める必要が
ある。いま多様な技術者グループはそれぞれ交流し、
それを全国展開(ネットワーク)する必要がある。プ
ラットホーム的に展開を考える必要がある。」と第二
部の議論をまとめられた。

~閉会挨拶~

○笹山幸俊 元神戸市長、NPO法人「都市災害に
備える技術者の会」理事長

最後に、シンポジウム提言が配布され、山田近畿支
部建設部会長が挨拶を行い閉会した。

(山崎和人、山田俊満 記)

(3)WG-C『谷埋め盛土防災を考える』活動報告

当WGでは、宅地造成等規制法が2007年3月末に
成立し、同年9月末から施行ということを考え、事業
推進に役立つ普及資料作成や、技術資料作成などを検
討しました。技術的な側面からは、2007年6月6日
に全国建設研修センターにおいて「盛土の耐震設計 -
設計・工事-」への講師として、当NPO理事の立場
でWGリーダーの太田が勤めました。また、当NPO
受託業務「大地震時における宅地盛土の被害に関する

調査業務」でご指導いただいた京都大学防災研究所の
釜井俊孝先生も同じ講習会で講師を務められました。

普及用資料は、国の制定する政令やガイドライン等
の成立に歩調を合わせて作成する予定でしたが、当初
見込みよりも相当ずれ込んだため、これに関しては
2008年度の活動として再度取り組む予定です。

また、2007年3月25日に発生した能登半島地震
では、能登有料道路の谷埋め盛土が選択的に11箇所
崩壊し、道路機能を失いました。宅地盛土に比べて十
分管理された施工がされているといわれる道路盛土
においても、宅地と同様の被害が発生するということ
は、当WGや釜井先生が予測・指摘した通りです。
2008年度は宅地盛土のみならず、道路の谷埋め盛土
についても積極的な提言を行っていきたいと考えて
います。

現在WG-C『谷埋め盛土防災を考える』は、以下
のメンバーで活動しています。会員の方で、WG-C
での活動を考えられている方は、太田(ohta@
toshisaigai.net)までご連絡下さい。

太田(リーダー)、林、國眼、石川、湯原、鹿田、
飯沼、宮本、廣野

(4)WG-D『当NPO法人の具体的活動について』 活動報告

WG-D『当NPO法人の具体的活動について』は、
昨年7月1日から活動を始めました。

前号(issue12)でも紹介しましたが、改めてWG-D
について簡単に紹介します。

設立の趣旨は、「当NPO法人が社会に貢献し、防
災・減災に役立つためには何をなすべきか、また何が
できるかについてその方向性を考える。」というもの
です。

この趣旨に基づき意見交換を行った結果は次の通
りです。

(1)当NPO法人の位置づけ:「我々は専門的技術
集団からなるNPO法人であり、純技術面から防災・
減災教育を行うことにより市民や行政に貢献する。」

(2)会員相互の活動円滑化のため、専門分野を明ら
かにした会員名簿を作成する。

(3)当面の具体的取組の第一歩として、小学校高学

年を対象に現在行われている自然災害に対する防災・減災教育を学校と連携してより効果的に行うための活動をする。

この結論に基づき、(2)、(3)について鋭意活動中があります。

(3)について具体的には、京都市教育委員会のご理解のもと、市内の小学校にて『安全』の授業時に利用しやすい(子供達が理解しやすい)教材を作成し提供する作業に取り組んでいます。今後は、近畿2府4県へと拡大するとともに、小学生のみならず、災害時の復興に重要な役割を担う各地域における建設関連業者・団体ともこのような教育・研修の場を持つ方向で考えています。

この他、当 NPO 法人の活動を広く社会に知って頂き、何らかの形で社会に貢献できる方策(ニーズの発掘)にも取り組んでいます。

その一環として、各地で活躍している『自主防災組織』との連携を図り協働で課題解決に取り組むこととしています。

また、全国で唯一環境防災科を有する兵庫県立舞子高校との連携もさらに深めていきたいと考えています。

最後になりましたが、WG - Dの活動にご興味・ご関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

WG - D代表 伊藤 東洋雄

※ 今回、WG-A、WG-Bの報告は休載いたします。

3. 事務局より

只今の会員数

賛助会員 7 団体

- ・ 神戸市安全協力会
- ・ 神戸市建築協力会
- ・ 神戸市測量設計協会
- ・ 「土木の学校」神戸の会
- ・ (株)地層科学研究所
- ・ (株)建設技術研究所
- ・ (株)ニューメディカテック

個人会員 59 名

会費納入のお願い

今回、今年度(19年度)会費の請求書を同封しております。お早めにお振り込みいただきますようお願い申し上げます。

一般会員：¥5,000 賛助会員：¥25,000

【 振込先 】

銀行名：みずほ銀行

支店名：天満橋支店

口座番号：8072070

口座名：特定非営利活動法人

都市災害に備える技術者の会

変更届け提出のお願い

ご入会後に勤務先、住所などに変更がある場合、変更届けの提出をお願いいたします。

変更届は、HPよりダウンロードできます。すみやかにご提出いただきますようお願いいたします。
(事務局)

原稿募集

会報誌の作成のため、積極的な活動と原稿投稿をお願い致します。
投稿されたい方は、事務局までお知らせ下さい。

WGのご案内

随時 WG を開催しています。活動中の WG は、

三輪泰司さんがリーダー

「まちづくり・教育」WG

石川浩次さんがリーダー

「津波・地震災害軽減を考える」WG、

太田英将さんがリーダー

「谷埋め盛土防災を考える」

伊藤東洋雄さんがリーダー

「当 NPO 法人の具体的活動について」

WGに参加するためには登録が必要です。

詳細はホームページでご確認ください。

<http://toshisaigai.net/wg/working.html>

= 編集後記 =

新年度となりました。13号は4月発行予定だったのですが、遅れて5月発行になってしまいましたことをお詫び申し上げます。(H.N)